

九州大学 (医学研究院 応用幹細胞医科学 ヒトゲノム幹細胞医学)
永松 剛 助教

“ 生殖細胞の多能性獲得メカニズム：
iPS 細胞との比較も交えて ”

私たちの体は 200 種類を超える細胞から構成されています。これらのほとんど全ての細胞は個体の寿命とともにその運命をともにし、活動を終えます。しかしながら、生殖細胞のみは種を維持するために遺伝情報を次の世代へと伝え、個体の寿命を超えて永続的に働いています。そのため生殖細胞は生体内で発生運命のプログラミング（決定）とリプログラミング（初期化）を繰り返しています。一方で、山中伸弥教授により樹立された iPS 細胞は生体外において、分化した細胞をリプログラミングして未分化状態に戻す技術です。そのため生殖細胞の発生と iPS 細胞技術には共通点があることが分かってきました。本講演では生殖細胞の発生について iPS 細胞との比較も交えて紹介します。

日時：12月7日(金)

16:30-17:30 (講演)

17:30-18:00 (質疑応答)

場所：津山高専・合併教室

学生、教職員、一般の皆さま、お気軽にご参加ください。

問い合わせ先：前澤孝信 (先進科学系) maezawa@tsuyama-ct.ac.jp